

令和7年度（2025年度）

宝塚市水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	．．．．．	1
2. 業務の予定量	．．．．．	1
3. 予算の規模	．．．．．	1
4. 予算の詳細	．．．．．	2
5. 主要施策	．．．．．	4
6. 管路等の耐震化の状況	．．．．．	6
7. 主な経営数値	．．．．．	7
8. 職員の内訳	．．．．．	8

1. 予算編成方針

水道の料金改定(平均改定率19%)について、急激な負担の増加を緩和するため設けた1年間の経過措置期間が終了します。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が依然として続く中で、使用者にとってはさらなる負担の増加となるため、今後、徹底した経営の改革と健全化が求められています。そのため、行うべき事業の内容・金額・時期を多方面から検討し、これまでに以上に無駄のない経営に努めます。

持続可能な水道事業の実施に向け、「管路耐震化(更新)事業」や「配水池加圧所耐震化(更新)事業」を基礎とした地震対策に取り組むとともに、維持管理費や施設更新費用の縮減を図るため、北畑加圧所、旭ガ丘加圧所及び生瀬浄水場(ポンプ設備)を新北畑加圧所に統合するダウンサイジングを実施します。

2. 業務の予定量

(1) 年度末給水人口 226,738人

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき令和7年度の推計人口を算出し、それに宝塚市の推計人口と住民基本台帳の人口との差を加味しています。

(人)

	給水人口	増減
令和3年度(決算)	231,929	-
令和4年度(決算)	230,437	△1,492
令和5年度(決算)	228,635	△1,802
令和6年度(予算)	228,615	△20
令和7年度(予算)	226,738	△1,877

(2) 年間有収水量 22,383,260^m

過去の有収水量を用途別に相関分析することにより、令和7年度の年間有収水量を計上しています。

(^m)

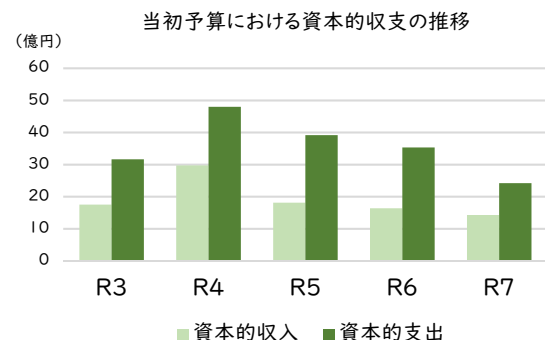
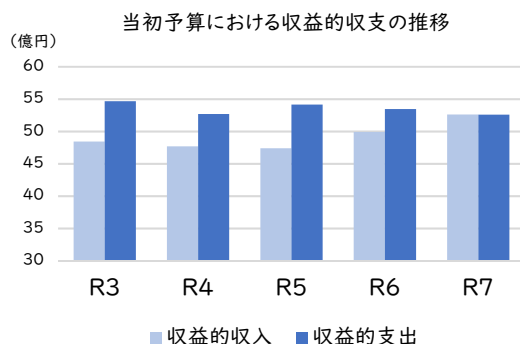
	有収水量	増減
令和3年度(決算)	23,342,565	-
令和4年度(決算)	22,941,541	△401,024
令和5年度(決算)	22,652,213	△289,328
令和6年度(予算)	22,794,748	142,535
令和7年度(予算)	22,383,260	△411,488

3. 予算の規模

令和7年度の支出総額(収益的支出と資本的支出の合計額)は約77億円で、令和6年度の当初予算と比較して約12億円減少しています。前年度(令和6年度)と比較して、建設改良費が約11億円減少したことなどが主な原因です。

収益的収支については、令和6年度及び令和7年度において、段階的に平均改定率19%の料金改定を実施することにより、収益的收入が増加し、収支が均衡するレベルとなりましたが、物価高騰などの影響も続いており、大きく黒字に転じるまでの改善は難しい状況です。

また、資本的収支については、建設改良費について継続費の活用などにより、施設の統廃合や地震対策に必要な投資の時期を調整したため前年度比で約11億円減少しています。資本的收入については、国庫補助金等を活用し、財源の確保に積極的に取り組む予算編成としています。



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区分		令和7年度(当初)	令和6年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 営業収益	4,335,887	4,343,000	△7,113	99.8	※1
	(給水収益)	(4,127,105)	(4,130,900)	(△3,795)	(99.9)	
	(受託工事収益)	(23,469)	(23,695)	(△226)	(99.0)	
	(その他営業収益)	(185,313)	(188,405)	(△3,092)	(98.4)	
	2 営業外収益	925,196	647,758	277,438	142.8	※2
	(分担金)	(134,676)	(137,899)	(△3,223)	(97.7)	
	(受取利息)	(1,134)	(1,777)	(△643)	(63.8)	
	(他会計補助金)	(329,712)	(29,804)	(299,908)	(1,106.3)	
	(長期前受金戻入)	(429,980)	(449,064)	(△19,084)	(95.8)	
	(雑収益)	(29,694)	(29,214)	(480)	(101.6)	
	3 特別利益	1,100	1,000	100	110.0	
	(過年度損益修正益)	(1,100)	(1,000)	(100)	(110.0)	
計		5,262,183	4,991,758	270,425	105.4	
支 出	1 営業費用	4,902,115	4,993,321	△91,206	98.2	※3
	(人件費)	(775,396)	(813,943)	(△38,547)	(95.3)	
	(受水費)	(1,375,398)	(1,380,203)	(△4,805)	(99.7)	
	(動力費)	(297,444)	(314,863)	(△17,419)	(94.5)	※4
	(薬品費)	(104,700)	(93,829)	(10,871)	(111.6)	※5
	(修繕費)	(258,999)	(323,787)	(△64,788)	(80.0)	※6
	(路面復旧費)	(4,427)	(4,930)	(△503)	(89.8)	※7
	(委託料)	(634,987)	(601,403)	(33,584)	(105.6)	
	(減価償却費)	(1,278,370)	(1,271,209)	(7,161)	(100.6)	
	(その他)	(172,394)	(189,154)	(△16,760)	(91.1)	
	2 営業外費用	335,449	330,651	4,798	101.5	※8
	(支払利息)	(215,049)	(194,651)	(20,398)	(110.5)	
	(消費税)	(90,000)	(136,000)	(△46,000)	(66.2)	
	(その他)	(30,400)	(0)	(30,400)	(皆増)	※9
	3 特別損失	1,300	2,000	△700	65.0	
	(過年度損益修正損)	(1,300)	(2,000)	(△700)	(65.0)	
	4 予備費	20,000	20,000	0	100.0	
	計	5,258,864	5,345,972	△87,108	98.4	
収 支 差 引		3,319	△ 354,214	357,533	-	

※1 (増減理由) 料金改定による増 368,469千円

有収水量の減少による減 74,543千円

重点支援地方交付金を活用した水道基本料金減免による減 297,812千円

※2 (増額理由) 水道基本料金減免に係る重点支援地方交付金の増 300,441千円

(減免にかかるシステム改修費を含む。減免期間は1期(2カ月)を予定。)

※3 (減額理由) 定員適正化計画実施のため。

※4 (減額理由) 令和6年度上半期実績を考慮し減額したため。

※5 (増額理由) 活性炭などの薬品単価の上昇のため。

※6 (減額理由) 令和5年度実績を考慮し減額したため。

※7 (増減理由) 惣川浄水場の休日夜間運転管理委託(令和7年10月開始分)の増 29,951千円

小浜浄水場の休日夜間運転管理委託(令和6年度更新分)の増 34,188千円

次期水道ビジョン・経営戦略策定業務委託の減 29,339千円

※8 (減額理由) 過去の納税実績額等を考慮し減額したため。

※9 (増額理由) 消費税計算に伴い生じる控除対象外消費税額(雑損失)の増が見込まれるため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和7年度(当初)	令和6年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収入	1 企業債	1,083,800	1,560,400	△476,600	69.5	
	2 国庫補助金	123,133	0	123,133	皆増	※10
	3 他会計負担金	21,000	21,000	0	100.0	
	4 工事負担金	68,417	54,000	14,417	126.7	
	5 貸付金返還金	130,000	0	130,000	皆増	※11
	計	1,426,350	1,635,400	△209,050	87.2	
支出	1 建設改良費 (事務費)	1,657,364 (100,965)	1,988,193 (92,458)	△330,829 (8,507)	83.4 (109.2)	
	(原水及び浄水施設費)	(53,666)	(319,973)	(△266,307)	(16.8)	※12
	(送水及び配水施設費)	(1,433,221)	(1,521,925)	(△88,704)	(94.2)	※13
	(営業設備費)	(69,512)	(53,837)	(15,675)	(129.1)	※14
	2 企業債償還金	733,973	712,649	21,324	103.0	
	3 投資	0	800,000	△800,000	皆減	
	4 予備費	30,000	30,000	0	100.0	
	計	2,421,337	3,530,842	△1,109,505	68.6	
収支差引		△994,987	△1,895,442	900,455	-	

資本的収支不足額994,987千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※10 内容は以下のとおりです。

水道施設再編推進事業（配水池統廃合） 73,500千円
水道総合地震対策事業（送水管耐震化） 49,633千円

※11 内容は以下のとおりです。

下水道事業会計貸付金の返還 130,000千円

※12 主な内容は以下のとおりです。

金属類分析装置更新 19,910千円（詳細は5ページに記載）
遠方監視装置更新 13,992千円（詳細は5ページに記載）

※13 主な内容は以下のとおりです。

管路耐震化（更新）事業 920,000千円（詳細は4ページに記載）
配水池加圧所耐震化（更新）事業 160,000千円（詳細は4ページに記載）
配水池加圧所機械設備等更新事業 40,000千円（詳細は4ページに記載）
配水池統廃合事業（右岸地区） 220,500千円（詳細は5ページに記載）

※14 主な内容は以下のとおりです。

水道メーター購入 47,314千円

5. 主要施策

(1) 施設改良・更新に関する取組

- ① 管路耐震化（更新）事業（予算額920,000千円）
管路更新・耐震化計画に基づいて、老朽化した
管路の更新・耐震化を行います。

工事場所	内容
寿楽荘外	ダクタイル鋳鉄管φ75～250布設工事 施工延長 L=1,676m
寿町外	ダクタイル鋳鉄管φ75～250布設工事 施工延長 L=320m
野上4丁目外	SUS150A水管橋架設工事 施工延長 L=10.5m
	SUS250A水管橋架設工事 施工延長 L=12.7m
市内一円	ダクタイル鋳鉄管φ75～φ250布設工事 施工延長 L=2,500m

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



- ② 配水池加圧所耐震化（更新）事業（予算額160,000千円）
更新時期を向かえた配水池・加圧所の更新・耐震化
を計画的に行います。

工事場所	内容
仁川高丸1丁目外	耐震二次診断調査
中山桜台7丁目	減圧槽更新工事
ゆずり葉台1丁目	配水池更新工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



- ③ 配水池加圧所機械設備等更新事業（予算額40,000千円）
配水池加圧所のポンプ及びバルブ類を更新します。

工事場所	内容
米谷下配水池 加圧所	ポンプ 3台 仕切弁 3台 逆止弁 3台

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



(2) 安心安全に関する取組

- ① 金属類分析装置更新(予算額19,910千円)
水道水に含まれている鉄、銅などの水質基準項目を分析する装置が経年劣化しているため、更新します。

工事場所	内容
水質検査室	誘導結合プラズマ質量分析装置の更新

予算：資本的支出>建設改良費>原水及び浄水施設費



- ② 遠方監視装置更新（予算額13,992千円）
惣川浄水場系原水取水施設及び県水受水施設の遠方監視装置（テレメータ装置）を更新します。

工事場所	内容
立合新田溪流取水口、県水第2供給点	テレメータ装置の更新

予算：資本的支出>建設改良費>原水及び浄水施設費



(3) ダウンサイジングに関する取組

- ① 配水池統廃合事業（右岸地区）（予算額220,500千円）
維持管理費や施設更新費用の縮減を図るため、北畑加圧所、旭ヶ丘加圧所及び生瀬浄水場（ポンプ設備）を新北畑加圧所に統合する工事を行います。

工事場所	内容
野上4丁目	新北畑加圧所新設工事

予算：資本的支出>建設改良費>送水及び配水施設費



6. 管路等の耐震化の状況

(1) 基幹管路の耐震化率（口径150mm以上の管路を対象）

導水管、送水管、配水管（口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。各工事の道路交通事情や他工事との調整での遅れとともに、計画当初から、阪神水道受水事業への注力、工事費の高騰など計画と実績に大きく乖離が発生しており、耐震化計画についても次期ビジョンにて見直しを行います。

（基幹管路延長 L=348,544m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
目標値(%)	26.5	29.4	32.3	35.1	38.0
実績値(%)	16.2	16.9	18.4	18.8	20.1

(2) 管路耐震化率（全管路対象）

管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。基幹管路の耐震に注力した結果、更新単価が大きく上回ったことや、阪神水道受水事業への注力、工事費の高騰など計画と実績に大きく乖離が発生しており、耐震化計画についても次期ビジョンにて見直しを行います。

（全管路延長 L=813,974m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
目標値(%)	13.8	15.1	16.3	17.6	18.8
実績値(%)	12.1	12.7	14.0	14.4	15.1

(3) 配水池の耐震化率

配水池のうち、耐震化がなされている施設の容量の割合です。容量の小さい配水池や加圧所の工事を実施していたため目標に達していませんが、今後は、容量の大きい配水池の工事を計画しています。

（配水池数 48カ所）

		令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		12	13	14	15	19
耐震化率 (容量比)	目標値(%)	52.2	55.5	59.7	61.0	61.0
	実績値(%)	47.0	49.1	49.2	51.1	58.0

(4) 加圧所の耐震化率

加圧所のうち、耐震化がなされている施設能力の割合です。予定していた耐震工事や更新工事を行い、耐震化率は向上しています。今後も引き続き事業を着実に実施します。

（加圧所数 29カ所）

		令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		12	13	15	15	17
耐震化率 (能力比)	目標値(%)	25.6	25.6	26.7	28.0	34.5
	実績値(%)	28.9	32.8	40.1	40.8	47.2

※ 目標値は水道事業経営戦略に掲げた数値です。

7. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。料金改定により、令和6年度及び7年度の数値は上昇し、令和7年度については100%を超える見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
経常収支比率(%)	92.3	88.2	92.5	96.2	101.5

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。令和6年4月及び令和7年4月に合計で平均19%の料金改定を実施するため、令和7年度は当期純利益がプラスとなり、利益剰余金が増加する見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
当年度純利益(千円)	△333,692	△466,861	△173,530	△181,432	70,141
未処分利益剰余金(千円)	837,646	370,785	197,255	15,823	85,964

(3) 年度末資金残高

現金預金残高については、令和7年度末に前年度比での増加を見込んでいます。給水収益などの増加に加えて、下水道事業への他会計貸付が1.3億円返済される見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
現金預金残高(千円)	3,541,313	3,087,797	2,251,725	1,375,145	1,447,883
大口定期等(千円)	0	0	100,000	100,000	100,000
他会計貸付金(千円)	1,220,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,440,000
合計(千円)	4,761,313	4,357,797	3,921,725	3,045,145	2,987,883

(4) 給水原価及び供給単価

供給単価は1m³あたりの平均収益、給水原価は1m³の水道水を作るのに要する費用です。すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
供給単価(円)	150.5	141.5	152.0	163.1	167.6
給水原価(円)	179.5	190.0	186.6	186.9	193.9
差引(円)	△29.0	△48.5	△34.6	△23.8	△26.3

なお、料金減免がなかったものとした場合の令和7年度末(見込)の供給単価は、179.7円です。

8. 職員の内訳

平成31年度（実績人数）から令和7年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和7年度は前年度に比べ1名増員して、81人の予算を計上しています。

（人）

平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	11	34	29	74
	再任用職員	0	8	1	9
	嘱託職員	1	0	0	1
	合計	12	42	30	84

令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	34	28	74
	再任用職員	0	8	2	10
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	42	30	85

令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	27	78
	再任用職員	0	3	3	6
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	28	79
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	36	28	76
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	39	30	82

令和6年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	37	27	76
	再任用職員	0	2	1	3
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	39	28	80

令和7年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	11	41	27	79
	再任用職員	0	1	0	1
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	12	42	27	81

※ 平成31年度から令和6年度までは実績人数、令和7年度は予算措置人数

※ 別に各年度とも管理者1名あり

令和7年度（2025年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	．．．．．	1
2. 業務の予定量	．．．．．	1
3. 予算の規模	．．．．．	1
4. 予算の詳細	．．．．．	2
5. 主要施策（雨水事業）	．．．．．	4
6. 主要施策（汚水事業）	．．．．．	5
7. 管路の耐震化の状況	．．．．．	6
8. 主な経営数値	．．．．．	7
9. 職員の内訳	．．．．．	8

1. 予算編成方針

水道の料金改定について、急激な負担の増加を緩和するため設けた1年間の経過措置期間が終了します。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が依然として続く中で、使用者にとってはさらなる負担の増加となるため、今後、徹底した経営の改革と健全化が求められています。そのため、行うべき事業の内容・金額・時期を多方面から検討し、これまで以上に無駄のない経営に努めます。

持続可能な下水道事業の実施に向け、令和3年8月に見直しを行った宝塚市下水道事業経営戦略に計上した「浸水対策事業」や「武庫川ポンプ場改築事業」「重要な污水管路の更新事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した取組を行います。

2. 業務の予定量

(1) 年度末水洗化人口 223,125人

(2) 年間有収水量 22,360,265^m

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき令和7年度の推計人口を算出し、それに宝塚市の推計人口と住民基本台帳の人口との差を加味しています。

過去の有収水量を用途別に相関分析することにより、令和7年度の年間有収水量を計上しています。

(人)

	水洗化人口	増減
令和3年度(決算)	227,864	-
令和4年度(決算)	226,429	△1,435
令和5年度(決算)	224,790	△1,639
令和6年度(予算)	224,970	180
令和7年度(予算)	223,125	△1,845

(^m)

	有収水量	増減
令和3年度(決算)	23,444,797	-
令和4年度(決算)	22,965,897	△478,900
令和5年度(決算)	22,675,126	△290,771
令和6年度(予算)	22,815,227	140,101
令和7年度(予算)	22,360,265	△454,962

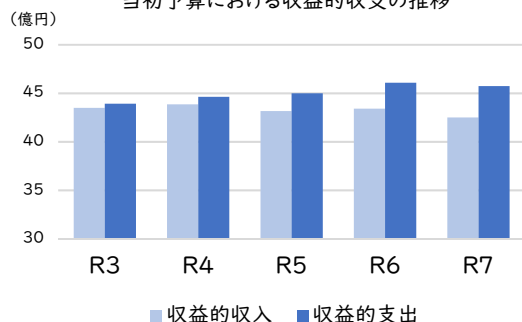
3. 予算の規模

令和7年度の支出総額(収益的支出と資本的支出の合計額)は約88億円で、令和6年度の当初予算と比較して約6億円増加しています。

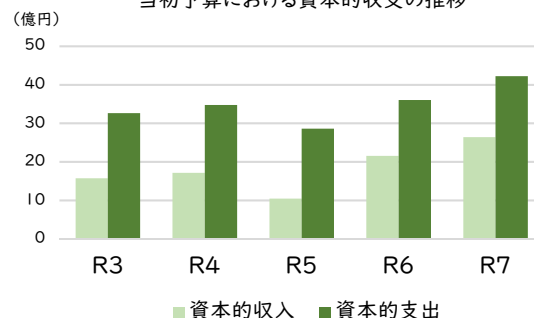
収益的収支については、有収水量の減少などの影響から収益的収入の予算規模は右肩下がりとなっています。一方で、収益的支出は、物価高騰などの影響も続いており、前年度とほぼ同程度(微減)の約46億円を見込んでいます。

資本的収支については、浸水対策、武庫川ポンプ場の改築、重要な污水管路の更新などにより前年度(令和6年度)と比較して、建設改良費が約7億円増加しています。また資本的収入についても、引き続き国庫補助金等を活用した財源の確保に積極的に取り組む予算編成としています。

当初予算における収益的収支の推移



当初予算における資本的収支の推移



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区 分	令和7年度(当初)	令和6年度(当初)	増 減	前年比(%)	備考
収入					
1 営業収益	3,076,449	3,153,774	△ 77,325	97.5	
(下水道使用料)	(2,375,017)	(2,436,895)	(△ 61,878)	(97.5)	※1
(雨水処理負担金)	(693,654)	(707,912)	(△ 14,258)	(98.0)	※2
(他会計負担金)	(7,111)	(6,870)	(241)	(103.5)	
(その他営業収益)	(667)	(2,097)	(△ 1,430)	(31.8)	
2 営業外収益	1,174,610	1,187,759	△ 13,149	98.9	
(国庫補助金)	(28,250)	(25,500)	(2,750)	(110.8)	
(他会計負担金)	(52,067)	(55,233)	(△ 3,166)	(94.3)	
(他会計補助金)	(392,893)	(398,429)	(△ 5,536)	(98.6)	
(長期前受金戻入)	(696,224)	(703,619)	(△ 7,395)	(98.9)	
(その他営業外収益)	(5,176)	(4,978)	(198)	(104.0)	
3 特別利益	331	301	30	110.0	
(固定資産売却益)	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
(過年度損益修正益)	(330)	(300)	(30)	(110.0)	
計	4,251,390	4,341,834	△ 90,444	97.9	
支出					
1 営業費用	4,216,657	4,236,053	△ 19,396	99.5	
(人件費)	(172,602)	(164,648)	(7,954)	(104.8)	
(修繕費)	(263,400)	(243,355)	(20,045)	(108.2)	※3
(委託料)	(194,158)	(244,376)	(△ 50,218)	(79.5)	※4
(負担金)	(170,616)	(186,796)	(△ 16,180)	(91.3)	
(流域下水道維持管理費)	(1,231,704)	(1,203,309)	(28,395)	(102.4)	※5
(減価償却費)	(2,124,077)	(2,132,040)	(△ 7,963)	(99.6)	
(その他)	(60,100)	(61,529)	(△ 1,429)	(97.7)	
2 営業外費用	345,823	361,238	△ 15,415	95.7	
(支払利息)	(205,823)	(201,238)	(4,585)	(102.3)	
(消費税)	(110,000)	(135,000)	(△ 25,000)	(81.5)	※6
(その他営業外費用)	(30,000)	(25,000)	(5,000)	(120.0)	
3 特別損失	1,501	1,501	0	100.0	
(固定資産売却損)	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
(過年度損益修正損)	(1,500)	(1,500)	(0)	(100.0)	
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
計	4,573,981	4,608,792	△ 34,811	99.2	
収 支 差 引	△ 322,591	△ 266,958	△ 55,633		

※1 (減額理由) 人口減少及び節水機器の普及等による有収水量減少のため。

※2 (減額理由) 調整池維持管理費の減少額13,928千円などのため。

※3 (増額理由) 公共下水道維持管理の増加額21,242千円などのため。

※4 (減額理由) 事業計画等策定業務委託の減少額 35,757千円、調整池維持管理費の減少額 13,928千円などのため。

※5 (増額理由) 猪名川流域下水道における委託料の増額などのため。

※6 (減額理由) 建設改良費等の増加により負担する消費税額の減少が見込まれるため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区 分		令和7年度(当初)	令和6年度(当初)	増 減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	2,302,650	2,017,900	284,750	114.1	※7
	2 国庫補助金	259,000	45,000	214,000	575.6	※8
	3 他会計負担金	76,302	88,927	△ 12,625	85.8	
	4 工事負担金	2,301	2,751	△ 450	83.6	
	5 水洗便所改造資金回収金	570	670	△ 100	85.1	
	計	2,640,823	2,155,248	485,575	122.5	
支 出	1 建設改良費 (事務費)	2,150,279 (63,296)	1,473,439 (64,677)	676,840 (△ 1,381)	145.9 (97.9)	※9
	(公共下水道整備費)	(1,775,747)	(1,123,947)	(651,800)	(158.0)	
	(流域下水道整備費)	(224,613)	(198,557)	(26,056)	(113.1)	
	(固定資産購入費)	(86,623)	(86,258)	(365)	(100.4)	
	2 企業債償還金	1,930,292	2,121,352	△ 191,060	91.0	※10
	3 他会計長期借入金償還金	130,000	0	130,000	皆増	※11
	4 貸付金	1,080	1,080	0	100.0	
	5 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
	計	4,221,651	3,605,871	615,780	117.1	
	収 支 差 引	△ 1,580,828	△ 1,450,623	△ 130,205		

資本的収支不足額1,580,828千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※7 (増額理由) 雨水事業に係る借入額が334,500千円増加したため。

※8 内容は以下のとおりです。

武庫川ポンプ場改築事業に係る補助金139,000千円

汚水管路等更新事業に係る補助金120,000千円

※9 主な内容は以下のとおりです。

浸水対策事業 723,700千円 (詳細は4ページに記載)

武庫川ポンプ場改築事業 278,000千円 (詳細は4ページに記載)

管路等更新事業 260,300千円 (詳細は5ページに記載)

重要な汚水管路の更新事業 423,000千円 (詳細は5ページに記載)

未水洗化区域施設整備事業 53,700千円 (詳細は5ページに記載)

※10 (減額理由) 公共下水道企業債の償還が244,423千円減少したため。

※11 (増額理由) 水道事業会計からの借入金、返済のため。

5. 主要施策（雨水事業）

（１）浸水に対する取組

① 浸水対策事業（予算額723,700千円）

近年頻発しているゲリラ豪雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組めます。

場所	内容
向月町	雨水排水施設の強化 補強管布設工事（φ1800）L=200m
星の荘	雨水排水施設の強化 補強管布設工事（φ800）L=200m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



② 調整池維持管理事業（予算額 7,400千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれが丘 1丁目	土砂浚渫 400㎡

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



（２）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額 296,625千円）

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、耐震補強工事に併せて改築を行います。

場所	内容
武庫川町	ポンプ場施設の耐震補強による第1期改築工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費（278,000千円）

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費（18,625千円）



（３）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額 38,095千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
山本地区等	水門ゲートのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



6. 主要施策（污水事業）

（１）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業（予算額 291,800千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を行い、調査結果を踏まえて改築を行います。

場所	内容
市内一円	コンクリート管 改築工事 L = 1200m
中筋地区	ストックマネジメント計画に基づくTV カメラ調査 L = 10,000m



予算：収益的支出＞営業費用＞委託料（31,500千円）

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費（260,300千円）

（２）耐震化の取組

① 重要な污水管路の耐震化事業（予算額 423,000千円）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路について耐震化工事を行います。

場所	内容
伊子志2丁目外	管更生工事（既設コンクリート管 φ1000） L = 1,180m



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（３）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業（予算額 53,700千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。

場所	内容
千種1丁目 外	污水管路布設工事（φ200） L = 300m



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（４）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額 27,328千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
市内一円 (14箇所)	污水流量計のクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



7. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な污水管路の耐震化率

損傷した場合に使用者への影響が大きい污水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された污水管路の耐震化率です。

令和6年度は中筋污水幹線（延長L＝105.0m）の耐震化に取り組みました。宝塚污水幹線については令和6年、7年に工事を分割しましたが、令和6年度分の工事に時間を要し、繰越となることから、目標値を17ポイント下回る見込みです。なお、最後の路線である宝塚污水幹線についての詳細設計は完了しており、令和7年度には目標値を達成する予定です。

（管路延長 L＝6,900m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 （見込）	令和7年度末 （見込）
目標値（％）	57.9	68.4	79.0	89.5	100
実績値（％）	56.9	64.1	71.0	72.5	100

(2) 污水管路の耐震化率（全管路対象）

污水管路総延長に対する耐震污水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施していますが、令和6年度は1.2ポイント、令和7年度は2.5ポイント、目標値を下回る見込みです。今後も確実に污水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L＝528,675m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 （見込）	令和7年度末 （見込）
目標値（％）	21.4	22.4	23.3	24.2	26.2
実績値（％）	21.2	21.4	22.6	23.0	23.7

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

8. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。全国平均105.9%、類似団体平均107.0%（令和5年度）と比較すると、本市の数値は低くなっており、令和7年度は100%を下回る見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
経常収支比率(%)	99.6	102.2	100.8	100.3	96.0

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和6年度は黒字を維持する一方、令和7年度はわずかに赤字となる見込みとなっています。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度に純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
当年度純利益(千円)	0	119,829	39,232	12,727	△170,537
未処分利益剰余金(千円)	2,598,940	2,718,769	2,758,001	2,770,728	2,600,191

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
借入金残高(千円)	970,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,440,000

(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1m³あたりの平均収益、汚水処理原価は1m³の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込)	令和7年度末 (見込)
使用料単価(円)	96.6	91.8	96.8	96.1	96.6
汚水処理原価(円)	112.3	114.4	116.1	117.2	125.9
差引(円)	△15.7	△22.6	△19.3	△21.1	△29.3

9. 職員の内訳

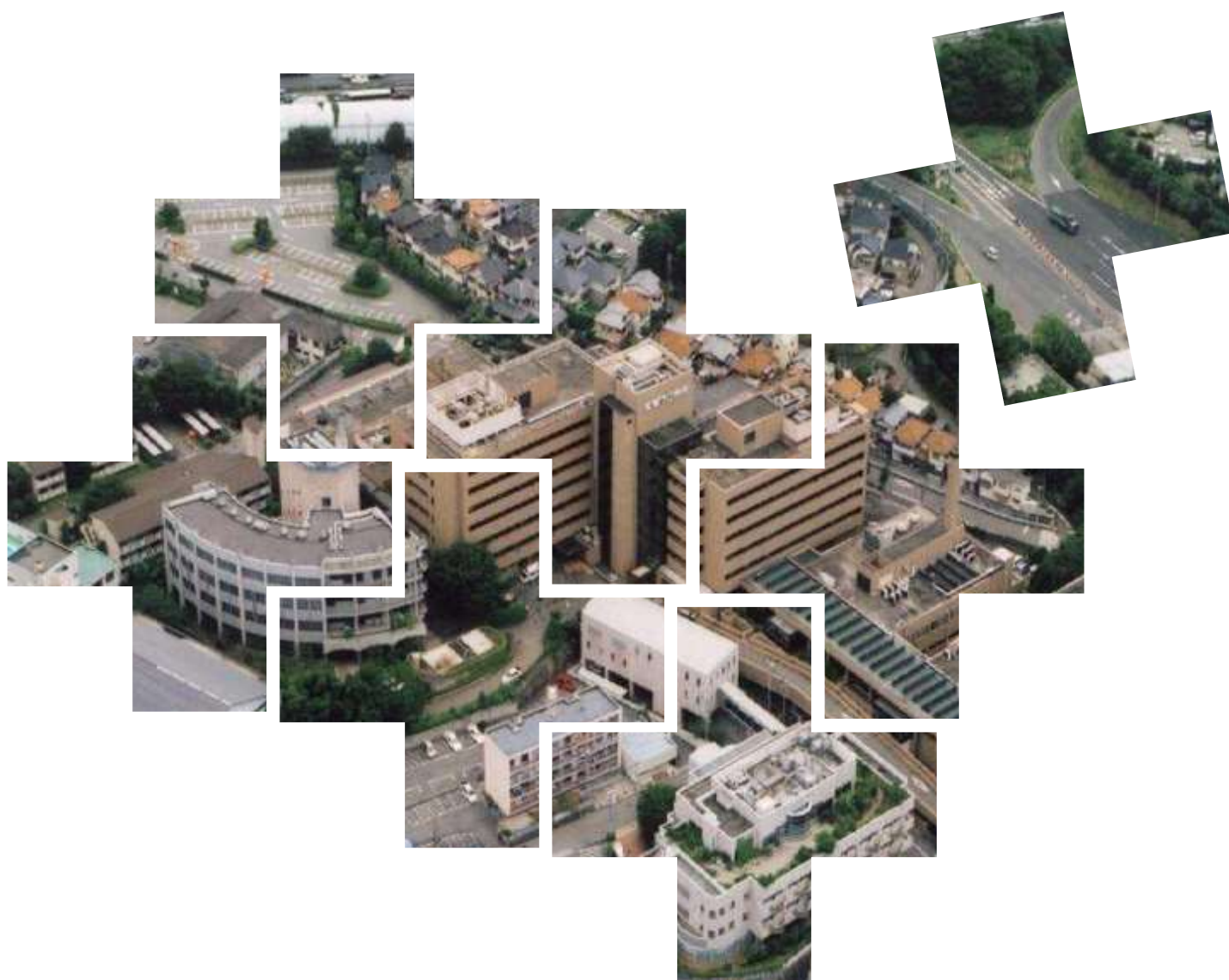
平成30年度（実績人数）から令和6年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和5年度にストックマネジメント計画を円滑に推進するために技術職員を1名増員しています。

（人）

平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	11	1	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	3	0	4
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23
令和6年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	4	15	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	5	17	0	22
令和7年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23

※ 平成31年度から令和6年度までは実績人数、令和7年度は予算措置人数

令和7年度 病院事業会計予算



Takarazuka City Hospital

目 次

1. 経営方針	．．．．．	1
2. 業務量	．．．．．	1
3. 予算の詳細	．．．．．	2
4. 主要施策	．．．．．	4
5. 予定損益計算書	．．．．．	5
6. 主な経営数値	．．．．．	6

1. 経営方針

新病院の整備に向けて、市立病院には早期の収支改善が求められています。令和6年8月から約1年間に亘る東病棟外大規模改修工事に伴う病棟の一部閉鎖によるマイナスの影響を考慮したうえで、令和8年度の黒字化を目指す3年間の年次目標を設定しています。

ここに、令和7年度の経営方針を次のとおり定め、収支均衡と将来を見据えた課題解決に取り組みます。

1 未来に向けて始めよう

- (1) 新病院整備基本計画の策定
- (2) 地域完結型医療を目指し、市内7病院を含む地域の医療機関との連携を強化
- (3) 手術支援ロボットの導入

2 信頼される病院になろう

- (1) 患者サービスと患者満足度の向上
- (2) 医療の質向上(病院機能評価※受審に向けた準備を含む)
- (3) 市民に負担をかけない経営(=収支均衡)

3 働きやすい職場を創造しよう

- (1) 働き方改革の推進
- (2) 人材の確保、育成、適性配置
- (3) ハラスメントのない職場づくり



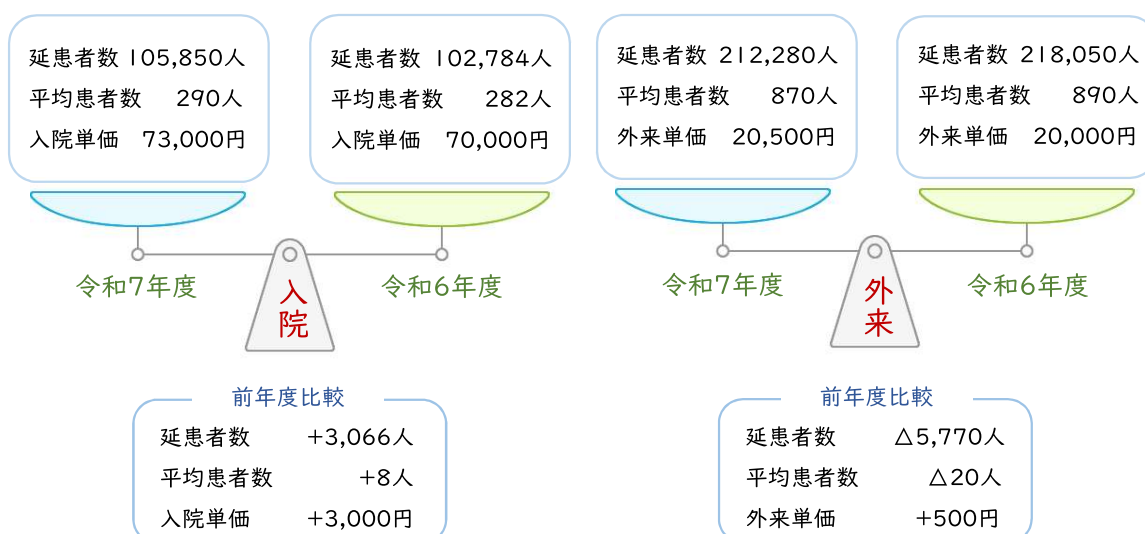
※ 公益財団法人日本医療機能評価機構が、病院の運営や医療の質を評価して、改善を促す仕組み。

令和6年度から3年間の目標

- ✓ 令和6年度 赤字体質からの脱却 (ファーストステップ)
- ✓ 令和7年度 収支均衡 (セカンドステップ)
- ✓ 令和8年度 持続可能な病院経営 (サードステップ)

2. 業務量

前年度予算の業務量と比較すると、入院の1日平均患者数は8人増加する一方、外来の1日平均患者数は20人減少し、単価は入院・外来のいずれも増加しています。



3. 予算の詳細（税込）

（1）収益的収入及び支出

令和7年度予算のうち収益的収入及び支出は次のとおりです。

（千円）

	区 分	令和7年度	令和6年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	医 業 収 益	12,792,682	12,267,300	525,382	104.3	
	（入院収益）	(7,727,050)	(7,194,880)	(532,170)	(107.4)	※1
	（外来収益）	(4,351,740)	(4,361,000)	(△9,260)	(99.8)	※2
	（他会計負担金）	(494,630)	(514,740)	(△20,110)	(96.1)	
	（その他）	(219,262)	(196,680)	(22,582)	(111.5)	
	医 業 外 収 益	1,189,151	1,204,131	△14,980	98.8	
	（受取利息）	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	（他会計補助金）	(284,839)	(290,921)	(△6,082)	(97.9)	
	（他会計負担金）	(168,340)	(177,279)	(△8,939)	(95.0)	
	（国 県 補 助 金）	(13,604)	(16,159)	(△2,555)	(84.2)	
	（長期前受金戻入）	(55,943)	(56,649)	(△706)	(98.8)	
	（資本費繰入収益）	(552,623)	(555,499)	(△2,876)	(99.5)	
	（雑収益）	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	（その他）	(113,800)	(107,622)	(6,178)	(105.7)	
特 別 利 益 (固定資産売却益) (過年度損益修正益) 収 入 合 計	特 別 利 益	3,001	3,001	0	100.0	
	（固定資産売却益）	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	（過年度損益修正益）	(3,000)	(3,000)	(0)	(100.0)	
	収 入 合 計	13,984,834	13,474,432	510,402	103.8	
支 出	医 業 費 用	14,051,373	13,698,037	353,336	102.6	※3
	（給与費）	(6,916,831)	(6,791,519)	(125,312)	(101.8)	
	（材料費）	(3,641,945)	(3,559,065)	(82,880)	(102.3)	
	（経費）	(2,564,895)	(2,435,201)	(129,694)	(105.3)	
	（減価償却費）	(870,856)	(860,285)	(10,571)	(101.2)	
	（その他）	(56,846)	(51,967)	(4,879)	(109.4)	
	医 業 外 費 用	126,455	132,701	△6,246	95.3	
	（支払利息等）	(43,186)	(42,482)	(704)	(101.7)	
	（長期前払消費税償却額）	(63,268)	(71,243)	(△7,975)	(88.8)	
	（消費税）	(20,000)	(18,975)	(1,025)	(105.4)	
	（雑支出）	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	特 別 損 失	10,001	10,001	0	100.0	
	（固定資産売却損）	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	（過年度損益修正損）	(10,000)	(10,000)	(0)	(100.0)	
	予 備 費	30,000	10,000	20,000	300.0	
	支 出 合 計	14,217,829	13,850,739	367,090	102.7	
	収益的収支差額	△232,995	△376,307	143,312	61.9	

(2) 資本的収入及び支出

令和7年度予算のうち資本的収入及び支出は次のとおりです。

(千円)

	区 分	令和7年度	令和6年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	企 業 債	468,000	1,099,700	△631,700	42.6	
	他 会 計 負 担 金	10,400	18,888	△8,488	55.1	
	寄 附 金	1	1	0	100.0	
	投 資 返 還 金	0	14,257	△14,257	皆減	
	収 入 合 計	478,401	1,132,846	△654,445	42.2	
支 出	建 設 改 良 費	540,387	1,178,782	△638,395	45.8	
	(建設改良工事費)	(336,700)	(626,000)	(△289,300)	(53.8)	※4
	(固定資産購入費)	(197,483)	(546,685)	(△349,202)	(36.1)	※5
	(リース資産購入費)	(6,204)	(6,097)	(107)	(101.8)	
	企業債償還金	1,046,118	1,070,491	△24,373	97.7	
	他会計借入金償還金	300,000	0	300,000	皆増	
	支 出 合 計	1,886,505	2,249,273	△362,768	83.9	
資本的収支差額		△1,408,104	△1,116,427	△291,677	-	

資本的収支不足額1,408,104千円は損益勘定留保資金等で補填する。

(備考欄の説明)

※1 延患者数105,850人 × 入院単価73,000円 = 7,727,050千円

※2 延患者数212,280人 × 外来単価20,500円 = 4,351,740千円

※3 職員数

令和7年度 医師83人、看護師367人、医療技術123人、事務職員31人

令和6年度 医師84人、看護師361人、医療技術123人、事務職員30人

※4 建設改良工事費の内訳

設備等保全事業

329,500千円

保全計画見直し事業(委託)

7,200千円

※5 固定資産購入費の主な内容

医療情報システムの導入・更新

125,763千円

医療機器整備事業

35,000千円

4. 主要施策

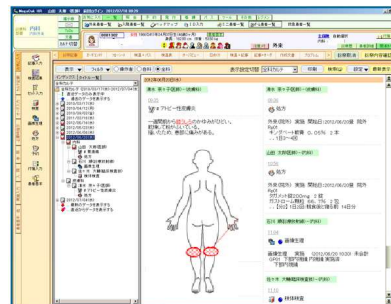
令和7年度の主要施策は次のとおりです。（2）は令和6年度からの繰越予算です。

（1）医療情報システムの導入・更新（125,763千円）

麻酔記録システム、診療情報管理システム、画像ファイリングシステム（眼科、耳鼻いんこう科）等を更新します。また、マイナンバーカードを活用した救急時医療情報閲覧機能及び公費負担医療制度のオンライン確認機能を導入します。

令和7年度予算額		125,763 千円
財源	企業債	95,100 千円
	一般会計繰入金	0 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	30,663 千円

資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



電子カルテ

（2）手術支援ロボット導入（394,708千円）

開腹や腹腔鏡による従来の手術と比較して、手術支援ロボットによる手術は、身体的な負担を軽減し、入院期間の短縮も図れます。また、人の手による手技と比べて自由度の高い動きができるため、より繊細で安全な手術を行うことができます。特に前立腺がん、腎臓がん、大腸がんなどの手術において、治療の選択肢が広がります。

令和6年度予算額（繰越）		394,708 千円
財源	企業債	0 千円
	一般会計繰入金	394,708 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	0 千円

資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



手術支援ロボット

（3）設備等保全事業（336,700千円）

新病院の建設を見据えても、なお更新、修繕が必要な設備等の保全工事を行います。本年度は、空調用熱源機器、中央監視室監視制御盤等を更新します。併せて計画策定から10年が経過する設備等保全計画(平成27年度策定)を見直します。

令和7年度予算額		336,700 千円
財源	企業債	336,700 千円
	一般会計繰入金	0 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	0 千円

資本的支出＞建設改良費＞建設改良工事費



中央監視制御装置

5. 予定損益計算書（税抜）

令和7年度の予定損益計算書は次のとおりです。各科目の金額は収益的収入及び支出の予算額に執行率(実績から算定)を乗じた額から、仮受消費税及び仮払消費税を差し引いて計算しています。また、控除対象外消費税の見込額520,000千円を医業外費用の雑支出に加算しています。

		(千円)	
1	医業収益	(執行率)	
(1)	入院収益	(99%)	7,649,780
(2)	外来収益	(99%)	4,308,223
(3)	その他医業収益	(96%)	<u>669,930</u>
			12,627,933
2	医業費用		
(1)	給与費	(98%)	6,773,403
(2)	材料費	(99%)	3,278,387
(3)	経費	(94%)	2,219,092
(4)	減価償却費	(94%)	818,605
(5)	その他医業費用	(90%)	<u>47,055</u>
			<u>13,136,542</u>
	医業損失 (=医業収益-医業費用)		508,609
3	医業外収益		
(1)	受取利息及び配当金	(100%)	1
(2)	他会計補助金	(95%)	270,597
(3)	他会計負担金	(94%)	158,240
(4)	補助金	(100%)	13,604
(5)	寄附金	(100%)	1
(6)	長期前受金戻入	(100%)	55,943
(7)	資本費繰入収益	(100%)	552,623
(8)	雑収益	(100%)	1
(9)	その他医業外収益	(100%)	<u>104,181</u>
			1,155,191
4	医業外費用		
(1)	支払利息及び		
	企業債取扱諸費	(96%)	41,459
(2)	長期前払消費税償却額	(100%)	63,268
(3)	雑支出	(100%)	<u>520,001</u>
			<u>624,728</u>
			<u>530,463</u>
	経常利益 (=医業収益+医業外収益-医業費用-医業外費用)		21,854
5	特別利益		
(1)	固定資産売却益	(100%)	1
(2)	過年度損益修正益	(99%)	<u>2,700</u>
			2,701
6	特別損失		
(1)	固定資産売却損	(100%)	1
(2)	過年度損益修正損	(90%)	<u>8,182</u>
			<u>8,183</u>
			<u>△5,482</u>
	当年度純利益 (=医業収益+医業外収益+特別利益-医業費用-医業外費用-特別損失)		16,372
	前年度繰越利益剰余金		<u>1,500,202</u>
	当年度未処分利益剰余金 (=当年度純利益+前年度繰越利益剰余金)		<u><u>1,516,574</u></u>

6. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。令和6年度は100%を下回る見込みですが、令和7年度はわずかに100%を上回る見込みです。詳細は5ページ「予定損益計算書」のとおりです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込み)	令和7年度末 (見込み)
経常収支比率 (%)	103.0	104.5	96.9	98.4	100.2

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

当年度純利益は、令和6年度はマイナス（純損失）令和7年度はプラス（純利益）になると見込んでいます。詳細は5ページ「予定損益計算書」のとおりです。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込み)	令和7年度末 (見込み)
当年度純利益（千円）	366,610	586,971	385,620	△205,913	16,372
未処分利益剰余金（千円）	733,524	1,320,495	1,706,115	1,500,202	1,516,574

(3) 年度末の一時借入金及び長期借入金残高

各年度末における一時的な借入金（短期的な借入金）と長期的な借入金の残高は次のとおりです。引き続き資金不足の解消及び財政状態の健全化に取り組んでいきます。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込み)	令和7年度末 (見込み)
一時借入金（千円）	0	0	0	0	0
長期借入金（千円）	1,960,000	1,160,000	1,150,000	1,150,000	850,000

(4) 企業債借入額、償還額及び残高

企業債とは施設の建設・改修や医療機器の購入に充てるために国等から借りる資金のことです。借入額よりも償還額が上回っており、企業債残高は減少傾向にあります。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末 (見込み)	令和7年度末 (見込み)
企業債借入額（千円）	700,900	864,500	383,700	742,900	928,600
企業債償還額（千円）	834,533	1,007,236	1,040,247	1,030,250	1,046,117
企業債残高（千円）	6,532,874	6,390,138	5,733,591	5,446,240	5,328,723

令和6年度宝塚市病院事業会計補正予算(第2号)の要領

1 補正予算の内容及び理由

手術支援ロボット(ダヴィンチ Xi)を購入するため、資本的支出のうち固定資産購入費と、資本的収入の他会計補助金をそれぞれ 394,708 千円増額します。

2 補正予算の詳細

(1) 資本的収入 (千円)

款	項	目	既決予定額	補正予算額	計
1	資本的収入		1,132,846	394,708	1,527,554
	5	補助金	0	394,708	394,708
		1 他会計補助金	0	394,708	394,708

(2) 資本的支出 (千円)

款	項	目	既決予定額	補正予算額	計
1	資本的支出		2,249,273	394,708	2,643,981
	1	建設改良費	1,178,782	394,708	1,573,490
		2 固定資産購入費	546,685	394,708	941,393

3 手術支援ロボット(ダヴィンチ Xi)の概要

ダヴィンチ Xi は米国インテュイティブサージカル社が開発した手術支援ロボットです。ダヴィンチ Xi を導入することにより、開腹手術と比較し手術後の回復が早く、患者の身体の負担を軽減することができます。また、人の手より自由度の高い動きができるため、より繊細で安全な手術を行うことができます。特に前立腺がん、腎臓がん、大腸がんなどの手術において、がん治療の選択肢が広がります。

